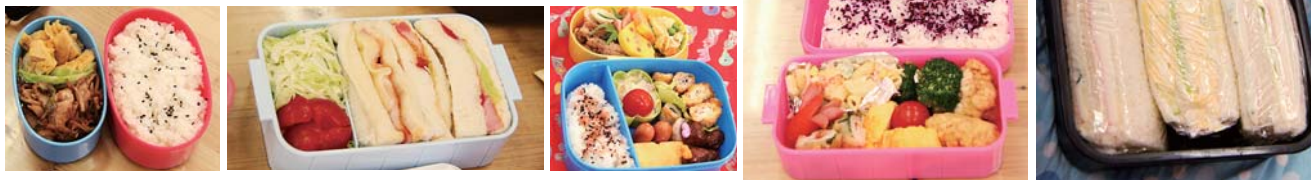




大隅中学校



弁当の日



校長先生のお弁当紹介
 弁当の日はいつも早起きして6個作っているそうです。1個は自分用、4個は忘れた生徒と先生用、「あと1個は妻のためにです」と少し恥ずかしそうに話してくれました。

ここ2年間、欠かさず作るおかずが「鶏肉の塩麴焼き」。使用する塩麴はなんと、奥さまのお母さんお手製だそうです。実に美味しそうなお弁当でした。

生きる力 そのヒントが「弁当の日」にはある。

生きることは「いのちをいただく」こと。感謝の気持ちを忘れないで欲しい。

「私の学校経営方針に弁当の日は欠かせません。PTAの皆さんと先生方のバックアップのおかげで保護者の理解を得ながら実施しています」と話すのは大隅中学校校長の上野哲さん。

徳之島伊仙中学校に赴任しているとき、弁当の日提唱者である竹下和男たけしたわくおさんに出会い感銘を受ける。その後、伊仙中学校を皮切りに枕崎中学校、大隅中学校で弁当の日を実施しています。

弁当の日のルールは、生徒自らが調理して持参すること。

「最初は、やらされている弁当の日」が回を重ねるうちに面白さを発見し、「自分でやる弁当の日」に変化していきます」と話します。

親にとっても、子どもにとっても手間がかかり、労力を使う弁当の日。それでも弁当の日を推奨する上野校長には「ある思い」がありました。

人権同和教育と弁当の日

上野校長は教員を志したときから、人権同和教育を指導理念の柱としています。

「我々は生き物の『いのち』をいただいて生きています。肉を食べられるのも食肉を処理する方がいてこそ。その方たちのおかげで私たちの血となり肉となります。感謝の気持ちを持たずにいただくことはできません」と感慨深く述べ「食肉解体処理を生業なりわいとする方への差別は現在も根強く残っています。教材を使つての人権同和教育だけではなく、弁当の日を取り入れることでさらなる相乗作用が生まれる」と話します。

「成果」と「課題」

「目に見えた成果はまだありません」と上野

校長は話しますが、給食の残食率は25年度が23%、26年度が7%と大幅に減少傾向にあります。その数字を見ても「まだまだ多い数字です」と満ち足りた様子はありません。

保護者対象のアンケートによると20%の保護者が弁当の日は「あまりよくない」「よくない」と回答。それに対し「この方たちへの働きかけが大切になってくる」と課題を述べました。

伝えたい「思い」

「父子家庭や母子家庭など家庭環境は様々です。子どもたちは育てられている環境のなかで、できることをコツコツとして『弁当の日』の楽しさを味わって欲しい。保護者の方には温かく見守りながら子どもの成長を見届けて欲しいです」。

できるだけ土日は、一人で暮らす母親を訪ね、鹿児島市の実家へ帰る上野校長。今まで育ててくれた感謝の意を込めて、弁当作りで培った自慢の手料理を母親へ振る舞います。

生き物に感謝し、人に感謝する。自分のためから人のために。弁当の日を経験した生徒さんが大人になったとき、上野校長の熱い思いが心に刻まれていることを切に願っています。



「弁当の日」について熱く語る
大隅中学校校長の上野哲さん(59歳)

肝付歩美さんの「弁当の日」

この春から中学3年生になる肝付さん。
「弁当の日」にどう取り組んだかを紹介します。



私は今回のお弁当作りで感じたことが2つあります。

1つ目は、お弁当作りの大変さです。買い物から下準備、翌朝のお弁当の盛り付けまで、初めて自分ひとりでした。栄養バランスのとれたお弁当を考えることはとても手間がかかるけど、とても楽しいものでした。毎朝、父や姉のために母が朝早く起きてお弁当を作っているのを今度から私も早起きしてお手伝いをしようと思いました。

2つ目は、命のありがたさです。私たちは命あるものをいただいて健康な生活を送れています。今まで当たり前のように食べてきましたが、これからは感謝しながら食べていきたいと思います。



下ごしらえ



食材の買い出し



数日前



彩りや栄養バランスを考え、完成図を作成。



完成!!

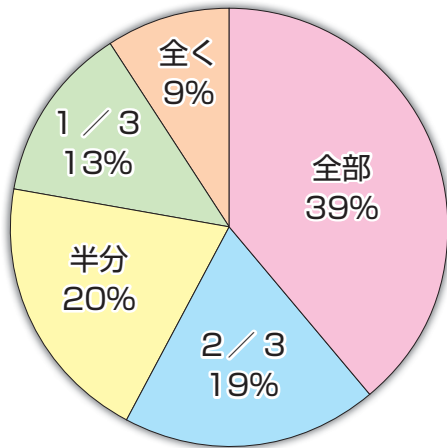


早起きして調理開始!

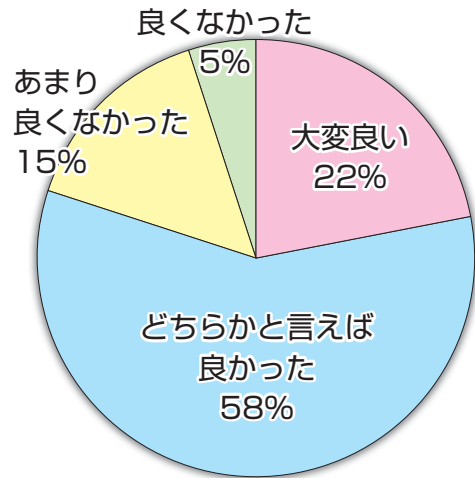


2015年2月13日 第4回弁当の日 保護者アンケート集計結果

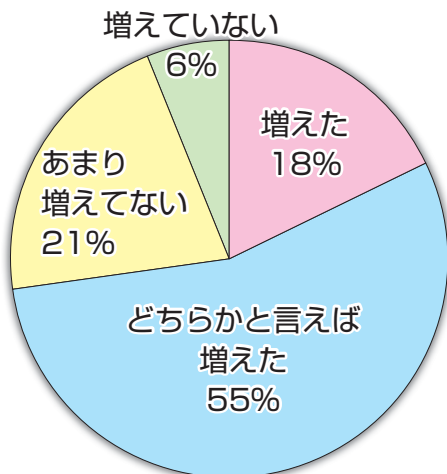
Q. どの程度子どもが作りましたか？



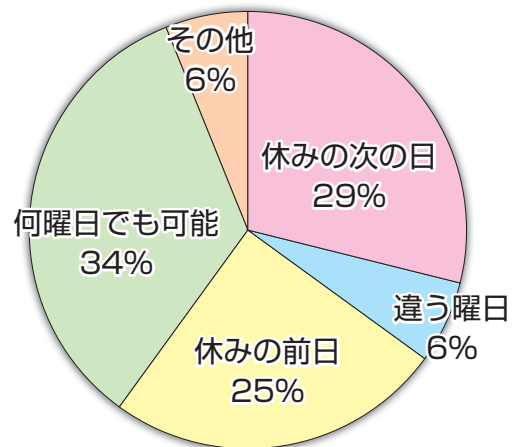
Q. いかがでしたか？



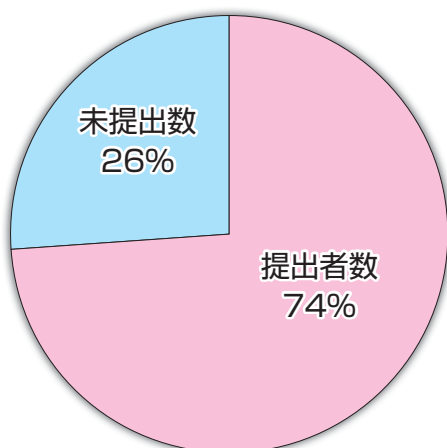
Q. 会話は増えましたか？



Q. 何曜日がいいですか？



Q. 全校の提出状況



保護者の声

- ・祖父母宅の自家菜園の野菜を使っのての弁当作りでした。自分で収穫して、それを使うことであらゆるものへの感謝ができればと思います。
- ・兄妹で協力してお弁当を作る姿は、微笑ましかったです。
- ・やればできるというこが身に付きました。何事も経験と失敗が必要だと思います。
- ・反省点ですが、日頃から調理等の手伝いをさせていないこともあり弁当を自分で作る意味を見いだせていない状態です。
- ・本人は作るということに興味がなく親は大変でした。まずは、家で作る楽しさを教えたいと思います。